

平成 25 年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書

東京外国語大学学術情報課目録係

村上 遥

平成 25 年度国立大学図書館協会海外派遣事業により、米国議会図書館、シカゴ大学図書館、コロンビア大学図書館を訪問し、調査・研究を行った。以下のとおり報告する。

1. 調査研究テーマ

北米で新しい目録規則 RDA が導入された。この動きをふまえ RDA を導入する際の研修体制、問題点とその解決方法、および目録システムの今後について担当者にインタビュー調査を行った。

2. 訪問期間

平成 25 年 8 月 3 日 (土) ～ 平成 25 年 8 月 14 日 (水)

3. 訪問先 / 担当者

(1) 米国議会図書館(以下 LC とする)

・研修事業担当 (COIN)

Judith Cannan, Paul Frank, Tim Carlton, Hien Nguyen

・目録担当

(日本語) Hisako Rogerson, Koji Takeuchi

(ペルシア語) Michael L. Chyet

・参考調査担当(アジア)

Mari Nakahara

(2) シカゴ大学図書館

Christopher Cronin, Jai-Hsya Tsao

(3) コロンビア大学図書館

Kate Harcourt, Sarah S. Elman, Hsiaoling Charlene Chou, Hideyuki Morimoto,
Amalia Contursi

4. 調査研究の成果

(1) 研修体制

LC では、RDA の研修を 2012 年 6 月から 2013 年 3 月にかけて行っている。上記期間中に 4 週間 (1 コマ 3 時間、計 12 コマ 36 時間) のコースが数回開催され、LC のスタッフ (約 500 名) だけでなく、共同目録プログラム “Program for Cooperative Cataloging” (PCC) 約 3000 名のスタッフが受講した。講師は COIN の 4 名が担当し、RDA テストに参加した米国の大学図書館のスタッフが協力したとのことである。研修で使用された教材はウェブで無料公開されている¹。公開されているオンライン教材は報告を行うことで、日本語に翻訳し再利用することが可能とのことである。日本でも日本目録規則の改訂など RDA の動きが活発化しているが、北米での研修用コンテンツを最大限に活用することで、効率的な知識の定着を進めることができると感じた。

(2) 問題点と解決方法

調査を行った 3 図書館では、コピー・カタログに関しては、RDA の導入による大きな問題はなくスムーズに移行されているとの認識であった。しかし、オリジナル・カタログでは、RDA はオプションが多く例示が少ないため、個々の担当者が判断に迷うケースが増加するとのことだった。オプションの取り扱いについては、LC と PCC は作業指針 (LC-PCC PS) を定めている。LC-PCC PS は、RDA の提供サイト RDA Toolkit²で公開されているが、日本に RDA を導入する場合にも、LC-PCC PS に相当する指針を別途定め、データの統制をとる必要があるとの認識を得た。

システム面では、Bibliographic Framework Initiative (BIBFRAME) など、MARC21 に代わるフォーマットが検討段階であるため、現時点では各図書館の業務システムには大きな変更が行われていない。ただし、シカゴ大学では Media Type など RDA で新設された MARC 項目をテーブルに追加するなど、小さな修正が必要とのことだった。

(3) 目録システムの今後

現在 MARC21 で作成された図書館の目録データは、図書館以外のコミュニティでオープンに利用できるフォーマットで記述されていないため、十分に活用されていないという問題がある。今回の調査研究を通じて北米ではこの問題解決へ向けたリンクトオープンデータの動きがあり、その先駆けとして RDA の導入が高く評価されていることを認識した。

¹ Library of Congress (LC) RDA Training Materials

<http://www.loc.gov/catworkshop/RDA%20training%20materials/LC%20RDA%20Training/LC%20RDA%20course%20table.html>

² RDA Toolkit

<http://access.rdatoolkit.org/>